

電子情報ボードの新技术

～ワンタッチで3Dの世界は開かれる～

有限会社イーダブルシステム 代表取締役 森元 賢一 氏に上記テーマで寄稿いただきました。

3D時代の3Dタッチパネルとは!

テレビ映像やプロジェクタの画像を使った一方的な情報のつめこみが日常氾濫しています。さらに最近の3D化によって、驚きを与えるほど、多くの情報が流れてきます。このような情報家電の高度化、情報通信のネットワーク化が進む中で、一方的に流れる情報はますます増大してくるでしょう。この中で通信インフラと融合したインタラクティブな(相互にやり取りできる)情報端末iPhone、iPadの普及は、自己の望む情報のみを選択できる、より人間らしい環境を身近に与えました。今後このインタラクティブな機能はiPadのような2次元表示の小型端末にとどまらず、3D画像に対応した大型端末にも波及し、広告、教育、展示媒体市場にインタラクティブ機能を持った3D情報端末として広まっていくでしょう。この新しいヒューマンインターフェイスを指向した入力センサーデバイスこそ、当社が独自に開発する3Dタッチパネルです。

書く、サインする、触れる、たたく、両手で触るなどのより自然な感覚がそのまま入力でき、しかもその強さを反映できる3Dタッチパネルが、一方的な情報の流れから、自らを選択し、入手できるインタラクティブな、より開かれた3D環境を創造するでしょう。

電子情報ボード開発の歩み

平成17年に押し圧を多値レベルで入力できるポインティングデバイス 3Dセンサー (非透明)を世界で始めて抵抗膜方式により開発しました。また平成21年には透明感圧抵抗シートを開発し、透明3Dセンサーを使った3Dタッチパネルの試作に成功しました。これらの成果によって、平成19年に京都府中小企業応援条例認定企業に、平成21年には戦略的基盤技術高度化支援事業に採択されました。(中小企業技術センター/京都産業21がサポート)

3Dセンサーとは

3Dタッチパネルに使われる3Dセンサーは、押し圧とその位置情報を同時に検知できる1枚のシートで、3次元入力

(X,Y,Z (押し圧))ができる特徴があります。中国、韓国を始め、世界で特許登録された日本独自の技術です。

構成が簡単であり、従来使われている抵抗式タッチパネルとの互換性も図れ、置き換え需要も期待できます。大型シートも容易で、立体(3D)画像の奥行き情報を押圧入力で制御し、より臨場感のある立体ユーザーインターフェイスとして大型立体デジタルサイネージへの展開が期待されています。



※日経エレクトロニクス 2008.6.2より

今後の事業展開

今後、さらに「けいはんな」を始め、地域の新しい技術を持った企業との連携を強化するとともに、社会に役に立つ製品の創出で世界に羽ばたく会社にするため、全力で取り組む所存です。

3Dタッチパネル付き60インチ表示装置



有限会社イーダブルシステム
代表取締役 森元 賢一 氏

所在地 京都府相楽郡精華町光台1-7

けいはんな・ラボ棟2F

TEL: 050-5000-9193

URL: <http://www.ewsystem.co.jp>

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
けいはんな分室

TEL: 0774-95-5027 FAX: 0774-98-2202

E-mail: keihanna@mtc.pref.kyoto.lg.jp